

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4078000090		
法人名	有限会社 シュヴァン		
事業所名	グループホーム いちょうの杜 三漕		
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市三漕町玉満400-5 (電話) 0942-54-9220		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年11月27日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(H21年10月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	11 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (10月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	7 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低	57 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	齊藤医院、松岡病院、たちばな森の里クリニック、矢野医院、柳瀬医院、毛利歯科
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム開設より5年半が経過し、利用者と職員を始め、利用者の家族ともしっかりと信頼関係が築かれている。インシュリンや人工肛門、胃ろう等、医療管理が必要な利用者も多いが、看護師が中心となって、それらの疾患への対応も行っている。介護職に対して看護職から研修を行うこともあり、介護だけではなく医療面の充実も図っている。地域や市との連携も取れており、緊急入所の相談等にも出来る限り対応するようにしている。何かあればまずここに相談、という心強い存在として、地域の中に根付いているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価にて指摘されたことについては、ミーティング等で話をしながら改善に向けて取り組みを行っているが、その時だけで継続出来ていないものもある。今年度は、改善計画書を作成して、改善に向けて計画的に取り組んで行くことが望まれる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については各職員が記入したものを管理者がまとめて、再度ミーティングで話をしている。また評価を行う意義についても説明を行い、それぞれの職員も理解し日々の業務の振り返りの場として活用している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>区長や民生委員、市の職員、地域包括支援センターの職員等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告しており、それぞれの立場から意見を出してもらっている。また、地域の方からは地域の行事や情報を教えてもらっており、双方の情報交換の場となっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>いつでも気軽に職員と話してもらえるような関係づくりを心掛けている。また年1回、家族会を開催しており、意見や不満等を出してもらえるような場面づくりも行っている。もし何か意見等があった場合には、それをミーティング等で話し合いを行いながら、改善に向けて取り組んでいくようにしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩している時に、近所の人に会ったら挨拶を交わすようにしているため、今では顔を覚えてもらって、気軽に声をかけてもらえたり、家で採れた野菜をおすそ分けしてもらえるような関係づくりが出来ている。また自治会にも加入しており、地域で行われる行事等にも積極的に参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	元々あった「受容・傾聴・共感」という理念に、今年の2月頃、職員像や地域との連携等、具体的な活動方針として「地域・社会との絆を強める 貢献の人」を加え理念として作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務所内に掲示しており、いつでも見られるようにしている。また、ミーティングの時間や普段利用者と接している時等にも話しをしながら、理念の実践と共有に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩している時に、近所の人に出会ったら挨拶を交わすようにしているため、今では顔を覚えてもらって、気軽に声をかけてもらえたり、家で採れた野菜をおすそ分けしてもらえたり、関係づくりが出来ている。また自治会にも加入しており、地域の三漕祭、がまだす祭の催し物に参加し、利用者の作品を文化祭に出品する等積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については各職員が記入したものを管理者がまとめて、再度ミーティングで話した。また評価を行う意義についても説明を行い、それぞれの職員の日々の業務の振り返りの場として活用している。前回の外部評価にて指摘されたことについては、ミーティング等で話しをしながら改善に向けて取り組みを行っているが、その時だけで継続出来ていないものもある。		改善計画書を作成して、改善に向けて計画的に取り組んで行くことに期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や民生委員、市の職員、地域包括支援センターの職員等が出席して、2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの取り組みや行事等を報告しており、それぞれの立場から意見を出してもらっている。また、地域の方からは地域の行事や情報を教えてもらっており、双方の情報交換の場となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状況を報告したり相談する等、必要時には連絡を取りながら対応するようにしている。また、法人本部が事業者協議会のグループホーム部会の事務局として活動しており、市と連携をとりながらサービスの質の向上に努めている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	協議会の勉強会に参加したり法人内で勉強会をする等しながら、制度についての知識を深めている。資料やパンフレットも準備しており、必要があればいつでも情報提供できるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日々の暮らしぶり等を個別に記入した「いちちょうの杜三漕だより」を月に1回作成し、家族に状況報告をするようにしている。また何かあれば、その都度電話や面会時に話をするようにしている。金銭管理については、毎月の請求時に合わせて、明細や領収書を送付するようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも気軽に職員と話してもらえるような関係づくりを心掛けている。また年1回、家族会を開催しており、意見や不満等を出してもらえるような場面づくりも行っている。もし何か意見等があった場合には、それをミーティング等で話し合いを行いながら、改善に向けて取り組んでいくようにしている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	普段から職員間の申し送りを密に行っているため、もし離職等があっても、それぞれが利用者のことを把握出来ているため、特に業務に支障をきたすことはない。そのため、利用者のダメージも特に感じることはない状況である。また、管理者はストレスケアの研修にも参加しており、職員のストレスの軽減に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の人柄を重視しており、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。また、実際に採用になった後も、それぞれの能力や得意なことを業務の中で活かしてもらえるような場面づくりも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングの時に話をしたり、認知症の人の気持ちを歌ったCDを聞いて、それぞれの感想を書いてもらう等しながら、人権について考える機会を作り、啓発に努めている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内やホーム内で定期的に勉強会を行ったり、外部研修にも積極的に参加するようにしており、研修を受ける機会が多い。今後は職員のレベルに応じた研修を受講することが出来るように研修計画を作成していく予定である。		職員のスキルやレベルに応じた研修の受講に向けて、研修計画を作成予定のようなので、早急に取り組み、実行していくことが望まれる。
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者協議会のグループホーム部会に参加しており、職員も交代で研修や交流会等に参加する機会がある。また、他事業所とお互いに連絡を取り合ったり、ホームを訪問し合ったりしながら、ネットワークづくりや情報交換を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に本人や家族と面談を行い、職員の顔を覚えてもらえるように努めている。また入所待ちの時にも月1回位電話を入れたり、見学や体験入所等を利用してもらったりしながら、徐々に場に馴染んだ上で入居できるよう、配慮や工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普段の生活の中で、料理の仕方や洗濯物のたたみ方を教えてもらったり、公文と一緒に取り組んだりしながら、お互い学びあったりすることが出来るような場面が多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションや会話の中から、思いや意向を引き出すように心掛けている。特にその利用者との個別の時間を作っていくことを大事にしている。意向の把握が困難な利用者については、家族から話を聞いて、利用者本位の対応が出来るように努めている。しかし今のところ、確認出来た思いや意向をアセスメント等の記録に残すまでは至っていない。		思いや意向を把握するために、いろいろな工夫がなされているので、その結果をきちんと記録に残し、職員間のケアの統一・質の向上につなげていくことが期待される。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの利用者の担当職員が計画の原案を作成し、サービス担当者会議を開催、本案を作成という流れになっている。家族の意向については面会時や電話で確認しており、担当者会議への参加は今のところ促していないことが多い。また、担当者会議で出た意見は多いが、それがうまく計画につながっていないケースが見受けられる。		ただ形式的に書類作成や担当者会議を行うのではなく、一連の流れがあるということを再認識し、利用者本位の介護計画を作成していくことが望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、定期的にケアプランの見直しを行っている。また、状態の変化があった場合にはその都度見直しを行い、現状に即した計画を作成するように努めている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望や要望に応じて、外出や受診時の付き添い等、個々に対応するようにしている。また、必要時には家族の宿泊も出来るようにする等、状況に応じて臨機応変に対応するようにしている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状態に応じて、元々のかかりつけ医の受診を支援したり、提携医療機関への受診をしている利用者もいる。受診が難しい利用者に対しては往診をしてもらっている。いずれも本人と家族の希望を聞きながら、適切な医療を受けることが出来るように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急医療体制や看取りについての指針を作成しており、入居契約時に説明を行い、同意の記名・捺印をもらっている。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも十分話し合いを行いながら連携を取りつつ、対応するようにしている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには日頃から注意を払っており、そのことについては日頃よりミーティング等でも話をするようにしている。個人記録についても事務所内のキャビネットの中に保管するようにしており、厳重に取り扱っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのおおまかな1日の流れはあるが、それにとらわれず、一人ひとりのペースや希望に合わせて、臨機応変に対応するようにしている。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや配膳等、それぞれが出来る範囲のことを手伝ってもらいながら、それぞれの能力を発揮出来る場面づくりを行っている。食事の時間も利用者と職員が同じテーブルで同じものを食べながら、いろんな会話を楽しんでいる。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の状態や希望に合わせて、週に2～3回は入浴を行ってもらおうよう支援している。また、ホーム内での入浴だけではなく、時々近くの温泉施設の家族風呂を利用することもあり、入浴を楽しめるように支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しや縫い物等の日常的な家事を始め、編み物や布切り、公文等、それぞれが役割を持って、一人ひとりが自分に自信を持って過ごしてもらえるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望に合わせて、散歩や買物等日常的に外出している他、ドライブに出かけて季節の花を楽しんだり、外食に出掛けたりすることもある。また自宅に戻りたいという希望があれば、自宅への外出や外泊を支援することもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠しておらず、安全面を考慮してドアセンサーの音で人の出入りを確認するようにしている。もし出て行こうとする方がいてもさりげない声かけや共に外出する等職員の見守りにより対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立ちあいも含め、年に2回は避難訓練を実施している。夜間想定訓練も行い、様々な場面に対応できるように取り組んでいる。また、運営推進会議の時に、地域の方々への協力もお願いしており、12月には地域の方と合同で訓練を行う予定である。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理専門の職員がおり、栄養バランスを考えながら献立を作成している。また食事摂取量は記録をつけるようにしており、一人ひとりの状態把握に努めている。また水分摂取量についても必要に応じ記録するようしており、利用者の健康管理に役立てている。		水分の確保には十分気を配ってはいるようだが、実際に何cc摂取しているのかが不明瞭である。高齢者においては、脱水の予防のためにも水分の管理は重要なところがあるので、必要な人のみではなく、全員の記録をとる取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はバリアフリーとなっており、室内の明るさもちょうどよい。また季節の花を飾ったり、装飾品や家具も一般家庭にあるようなもので揃えており、心地よく過ごせる環境となっている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みの装飾品や使い慣れた家具が持ち込まれていたり、壁に家族の写真を飾ったりして、思い思いの空間づくりがなされている。		